

2009年3月期決算説明会

株式会社 ミューチュアル

2009.6.9(火)

(決算短信補足資料)

代表取締役社長

三浦 浩一

経理部長

吉野 尊文

経営理念 社 是

私たちは、社業を通じて、社会の発展に寄与し「共存共栄」をモットーとしてお取引先・株主・社員の豊かな未来を目指します。

ミューチュアル = “ 互いに協力する共存の精神 ”

お取引先の立場になって考え、行動し多彩なユーザーニーズを満たすことで共に発展・繁栄する事を喜びとしております。

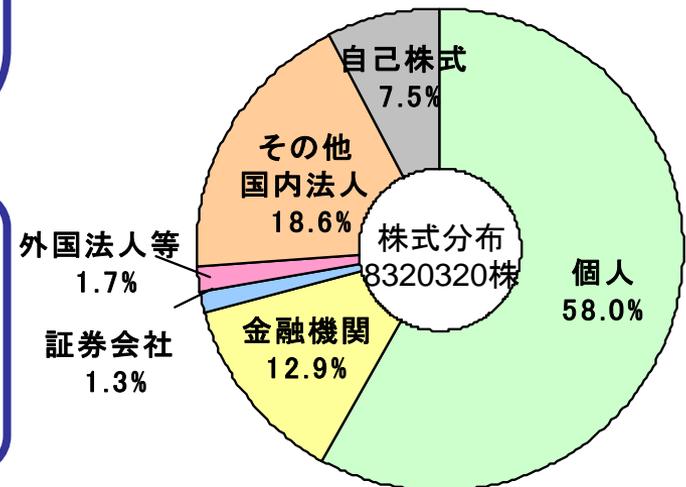
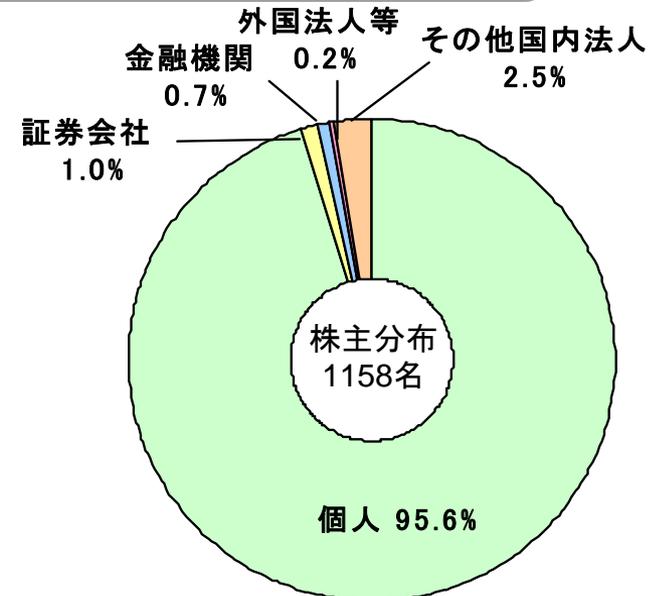
社員一人一人が自らの人格を磨き、助け合い・力を合わせて会社の発展に尽くすと共に社会に貢献する事で企業としての存在価値を見出し、又各人の幸福を追求してゆくことを念じているのであります。

会社概要

社名 株式会社ミューチュアル
 会社設立 昭和24年(1949年)2月14日
 代表者 代表取締役会長 三浦 隆
 代表取締役社長 三浦 浩一
 本社 大阪市北区西天満1丁目2番5号
 資本金 6億6970万円
 社員数 132名(33)【連結】 115名(23)【単体】
 ()は嘱託・パート等の外数です
 関係会社 3社
 上場 2003年6月12日ジャスダック証券取引所
 証券コード2773

事業内容

主として、医薬品業界、化粧品業界向けの製剤・包装関連設備を中心とした産業機械等の改良・製造・販売のほか、工業用ダイヤモンドの販売、包装資材の製造・販売等



(2009年3月31日現在)

沿革

- 
- 昭和24年02月 ■産業用機械輸出商社、(株)ミューチュアル トレーディング設立
 - 昭和28年05月 ■工業用ダイヤモンドの輸入販売業務を開始
 - 昭和36年10月 ■国内での包装機械販売業務を開始
 - 昭和38年05月 ■東京事務所（現：東京支店）を開設
 - 昭和44年03月 ■LAMP社との合併で日伊包装(株)を設立
 - 昭和53年04月 ■静岡出張所（現：静岡営業所）を開設
 - 昭和57年02月 ■大阪技術センターを開設
 - 昭和58年04月 ■社名を(株)ミューチュアルに変更
 - 昭和59年11月 ■米国ニュージャージー州にU. M. I社を設立
 - 昭和62年09月 ■福岡出張所（現：福岡営業所）を開設
 - 昭和62年11月 ■東京技術センターを開設
 - 平成06年07月 ■(株)ウイストを設立
 - 平成15年04月 ■富山営業所を開設
 - 平成15年06月 ■（現）ジャスダック証券取引所に上場
 - 平成15年06月 ■資本金6億6970万円に増資
 - 平成17年04月 ■ファーマリード・エンジニアリング(株)設立
 - 平成21年03月 ■本社が大阪市北区西天満に移転

当社の強み 4つの機能の総合力で多様な顧客ニーズに応える

トラブル対応からトラブル予防へ、お客様に安心を提供

メンテナンスサービス担当者による予防保全定期点検、校正作業他、緊急時の対応・・・などなど、豊富なサービスメニューを用意しています。

メンテナンス機能

お客様ニーズをくみとった生産ラインの提案・構築

お客様の要望に基づいて国内外の製品を評価・調達し、医薬品製造に求められるGMP規格に適合する、信頼性の高い生産ラインを提案・構築します。

エンジニアリング機能

商社機能

独自製品の開発・製作から輸入製品のカスタマイズまで

お客様によって異なる多様なニーズに、独自製品の開発・製作から輸入製品のカスタマイズまで、幅広い開発手法で細かく対応し、つねに最適・最高の性能を発揮できる設備機械および生産ラインを提供します。

開発機能

最先端の情報と製品をお客様に提供

技術商社として歩み続けたミューチュアルの半世紀以上の歴史。そのなかで築き上げたグローバルネットワークを活かし、国内外の優れた機械・技術・情報をお客様に提供しています。

目次

1. 2009年3月期決算概要 … P 1～P 9
2. 2010年3月期通期業績見通し … P10～P14
3. 当社の基本戦略 … P15～P24

2009年3月期 決算概要

経理部長

吉野 尊文

連結業績ポイント-1

■売上高 **9,428百万円**

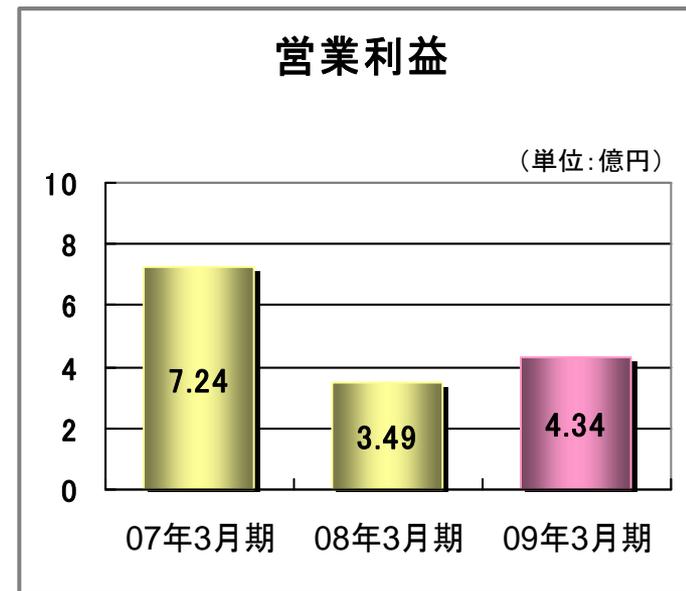
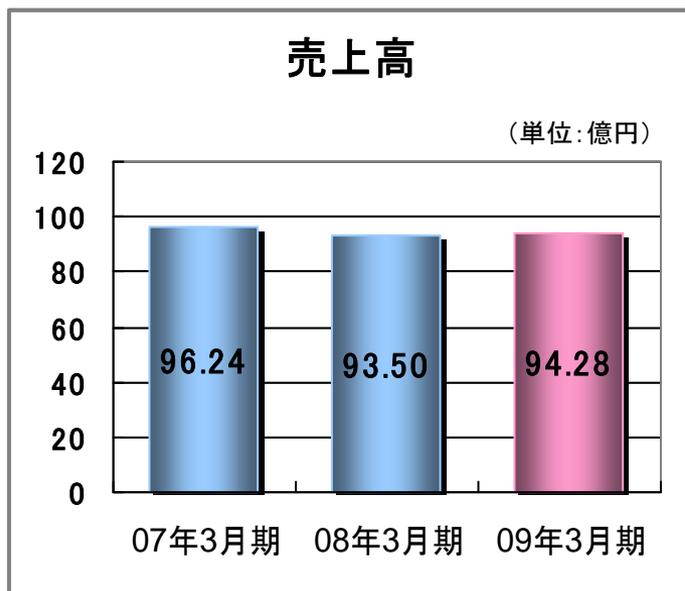
(前年同期比0.8%増)

- ◆前年水準を維持
- ◆一連ライン、単体機、改造・調整・修理部門が好調

■営業利益 **434百万円**

(前年同期比24.2%増)

- ◆円高メリット等による原価低減と販売費及び一般管理費の圧縮効果



■ 経常利益 **477百万円**

(前年同期比12.2%増)

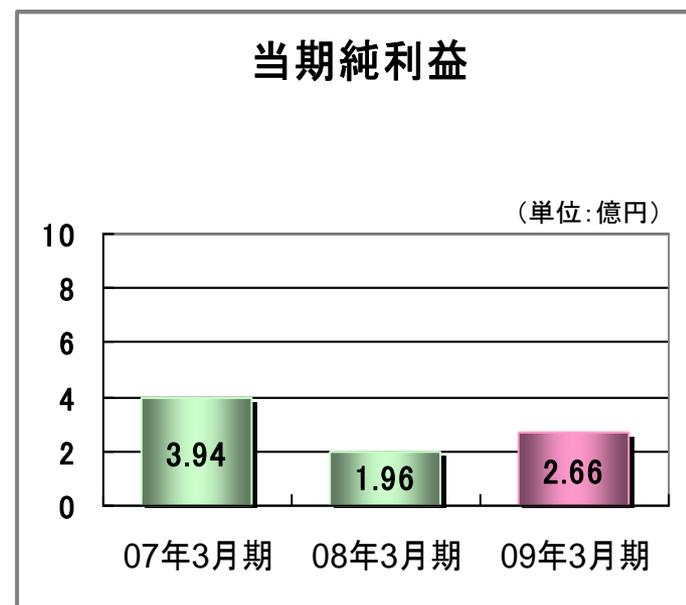
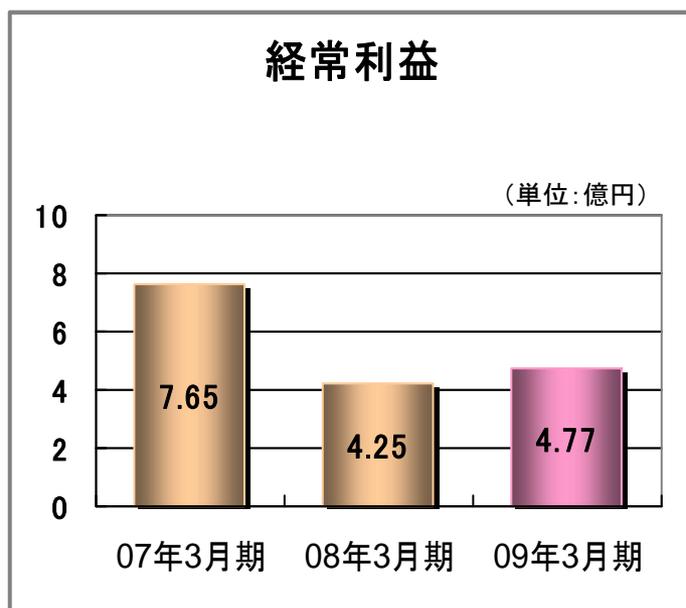
◆ 投資有価証券評価損35百万円計上

■ 当期純利益 **266百万円**

(前年同期比35.4%増)

◆ 特別利益112百万円

特別損失68百万円計上



損益計算書

(単位:百万円)

	2008/3	2009/3	前年同月比較	
			金額	率
売上高	9,350	9,428	77	0.8%
売上総利益	1,831	1,883	51	2.8%
販売費及び一般管理費	1,481	1,449	△32	△2.2%
営業利益	349	434	84	24.2%
経常利益	425	477	51	12.2%
当期純利益	196	266	69	35.4%

- 増収効果(77百万円)により、売上総利益15百万円増、原価率低減により36百万円増
- 販売費及び一般管理費32百万円減少(サービス費41百万円減、退職給付費用10百万円増等)等により、営業利益84百万円、経常利益51百万円、当期純利益69百万円といずれも増加

要約 貸借対照表

(単位:百万円、%)

【増減ポイント】

【資産の部】	2008年3月期		2009年3月期		増減額
	実績	構成比	実績	構成比	
流動資産	7,655	65.9%	7,913	68.1%	257
固定資産	3,965	34.1%	3,699	31.9%	△266
有形固定資産	677	5.8%	757	6.5%	80
無形固定資産	20	0.2%	19	0.2%	△1
投資その他の資産	3,267	28.1%	2,922	25.2%	△345
資産合計	11,621	100.0%	11,612	100.0%	△8

- ◆流動資産: 現預金△1,120
受取手形及び売掛金+949
有価証券+15
棚卸資産+502
前渡金△188
その他+100
- ◆固定資産: 建物及び構築物+10
機械装置及び運搬具△24
土地△24
- ◆投資その他の資産: 投資有価証券△423
繰延税金資産+81
長期性預金△100
その他+97

【負債・純資産の部】

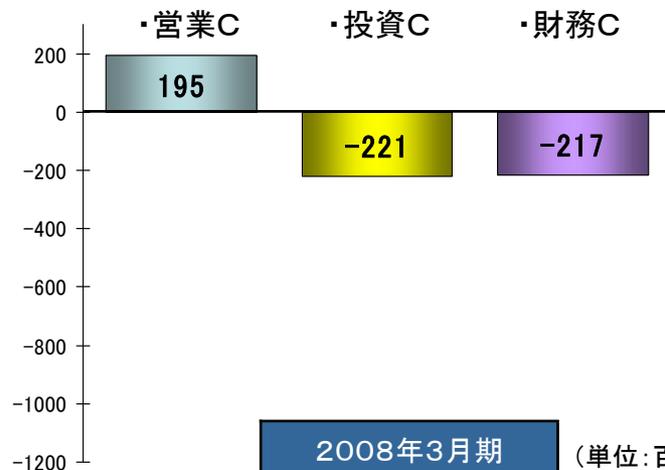
流動負債	3,626	31.2%	3,686	31.7%	60
固定負債	942	8.1%	977	8.4%	35
負債合計	4,568	39.3%	4,664	40.2%	95
純資産合計	7,052	60.7%	6,948	59.8%	△104
負債・純資産合計	11,621	100.0%	11,612	100.0%	△8
(有利子負債)	105		95		△10

- ◆流動負債: 支払手形及び買掛金+287
短期借入金△10
前受金△303
その他△4
- ◆固定負債: 退職給付引当金+39
負ののれん△8
その他+4
- ◆純資産: 利益剰余金△110
自己株式+41
その他有価証券評価差額+184
繰延ヘッジ損益△9

キャッシュフロー

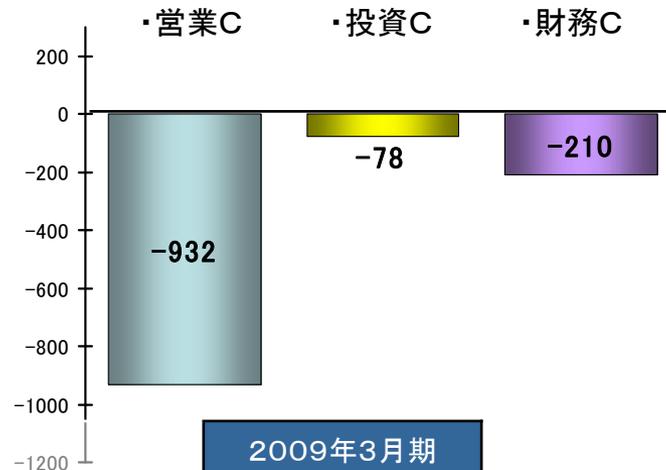
(単位：百万円)

2008年3月期



(単位：百万円)

2009年3月期



2008年3月期	(単位：百万円)	2009年3月期
2,144	現金及び現金同等物の期首残高	1,900
1,900	現金及び現金同等物の期末残高	679
51	減価償却費	45
12	設備投資額	153

営業活動

税金等調整前当期純利益520百万円、前渡金の減少188百万円、仕入債務の増加287百万円により増加。売上債権の減少949百万円、棚卸資産の増加502百万円、前受金の減少303百万円により減少。

投資活動

投資有価証券償還による収入200百万円、有価証券償還による収入161百万円、投資有価証券取得276百万円、有形固定資産取得96百万円、差入保証金差入41百万円を支出。

財務活動

配当金支払額153百万円、自己株式取得41百万円等の支出。

財務データ一分析

	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期
1. 1株当り純資産額(円)	906. ²²	886. ⁶⁹	883. ⁸⁹
2. 1株当り純利益(円)	49. ⁶³	25. ¹⁴	34. ³⁸
3. 自己資本比率(%)	59. ²	59. ⁴	58. ⁶
4. 流動比率(%)	206. ⁹	211. ¹	214. ⁷
5. ROE(自己資本利益率)(%)	5. ⁶	2. ⁸	3. ⁹
6. 総資産経常利益率(%)	6. ⁵	3. ⁶	4. ¹
7. PER(株価収益率)(倍)	11. ⁷	20. ⁵	13. ⁴
8. PBR(株価純資産率)(倍)	0. ⁶⁴	0. ⁵⁸	0. ⁵²

参考(期末株価): '07年3月30日 579円 '08年3月31日 516円 '09年3月31日 460円
 (日経平均): '07年3月30日 17,287円 '08年3月31日 12,525円 '09年3月31日 8,109円

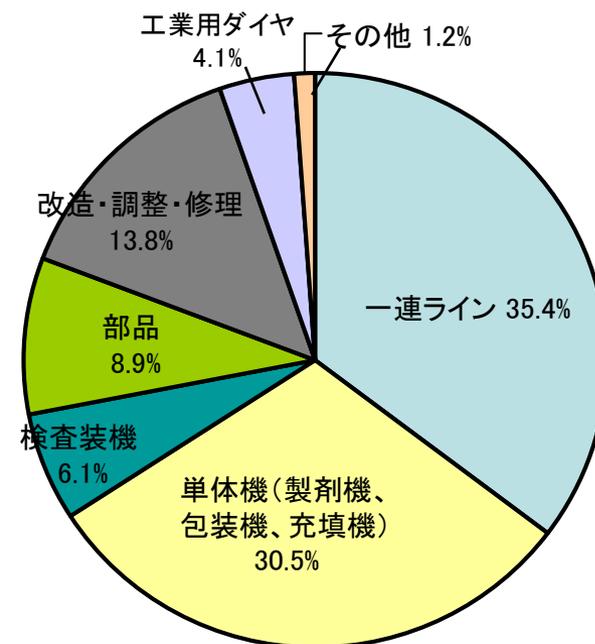
2004年5月20日 普通株1株を1.2株に分割 (963,000株増)
 2005年5月20日 普通株1株を1.2株に分割 (1,155,600株増)
 2006年4月 1日 普通株1株を1.2株に分割 (1,386,720株増)

セグメント別売上構成－1

■ 品目別販売構成比

(単位:百万円)

	08/3	09/3	前年 同期比
一連ライン	3,084	3,336	252
単体機(製剤機、包装機、充填機)	2,590	2,878	287
検査装置	812	579	△232
部品	1,048	835	△213
改造・調整・修理	1,054	1,303	249
工業用ダイヤモンド	532	383	△148
その他	228	110	△117
合計(全体)	9,350	9,428	77



セグメント別売上構成－2

■ 地域別構成比

(単位:百万円)

	2008/3	構成比%	2009/3	構成比%	増減額
国内	9,118	97.5%	9,191	97.5%	73
北米	0	0.0%	0	0.0%	0
アジア	232	2.5%	235	2.5%	3
その他	0	0.0%	1	0.0%	1
合計	9,350	100.0%	9,428	100.0%	77

■ 業界別販売構成比

(単位:百万円)

	2008/3	構成比%	2009/3	構成比%	増減額
医薬品	7,002	74.9%	6,589	69.9%	△413
化粧品	988	10.6%	1,272	13.5%	284
食品	367	3.9%	571	6.1%	204
その他	993	10.6%	995	10.5%	2
合計	9,350	100.0%	9,428	100.0%	77

関係会社の状況

(単位:百万円)

		2008年3月期			2009年3月期		
		売上高	経常利益	当期純利益	売上高	経常利益	当期純利益
日伊包装(株)	包装資材の製造及び加工	64	3	3	76	17	△13
(株)ウイスト	充填機、キャッパ他自動化・省力化機械の設計・製作	1,047	122	68	831	49	27
ファーマリード・エンジニアリング(株)	医薬品・化粧品・食品の製造施設・製造ラインのエンジニアリングとコンサルティング	172	3	3	133	23	23



日伊包装(株)



(株)ウイスト



ファーマリード・エンジニアリング(株)

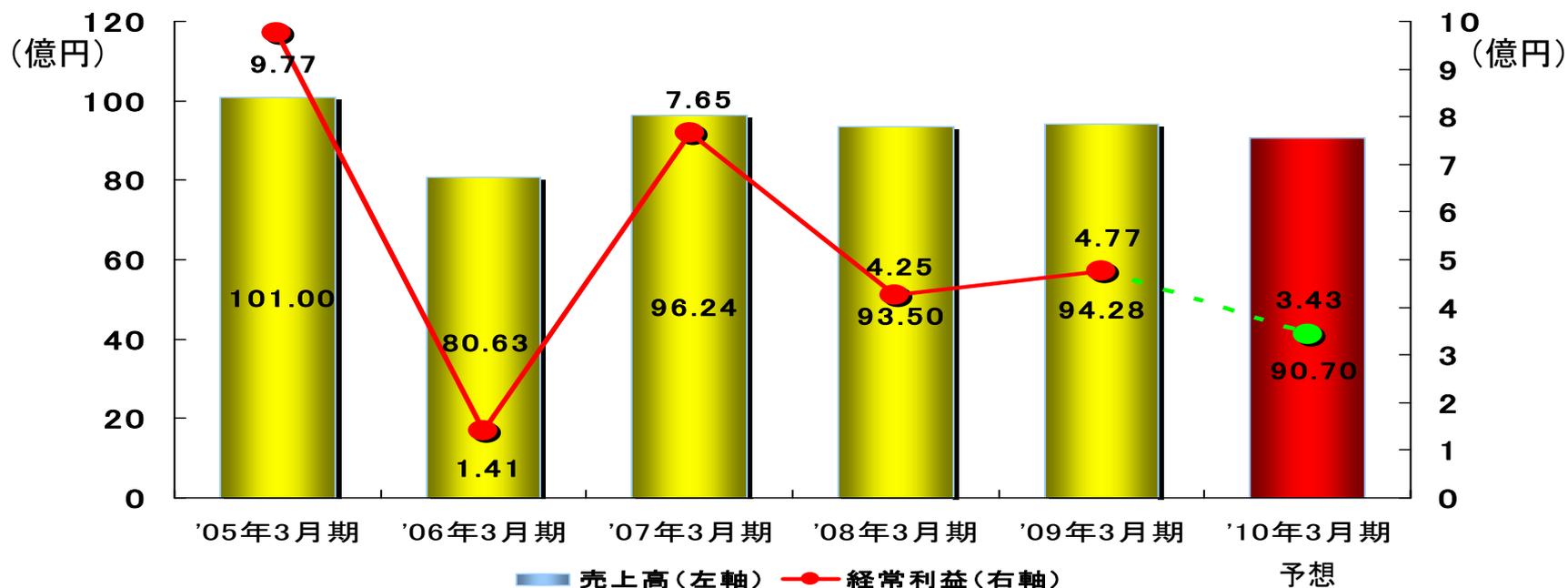
2010年3月期 通期業績見通し

代表取締役社長

三浦 浩一

概況ポイント

- 前期からの繰越受注残高が前年比787百万円減により、減収減益見込
- 営業拡大のため大規模な展示会へ積極出展予定



■ 前期実績対比

(単位:百万円)

	2009/3	2010/3 (予想)	通期比較	
			金額	率
売上高	9,428	9,070	△358	△3.8%
売上総利益	1,883	1,861	△21	△1.2%
販売費及び一般管理費	1,449	1,566	116	8.1%
営業利益	434	295	△139	△31.9%
経常利益	477	343	△134	△28.0%
当期純利益	266	188	△78	△29.4%

- 株式会社ウイストは売上700百万円、
経常利益6百万円
- ファーマリード・エンジニアリング株式会社は
売上140百万円、経常利益18百万円

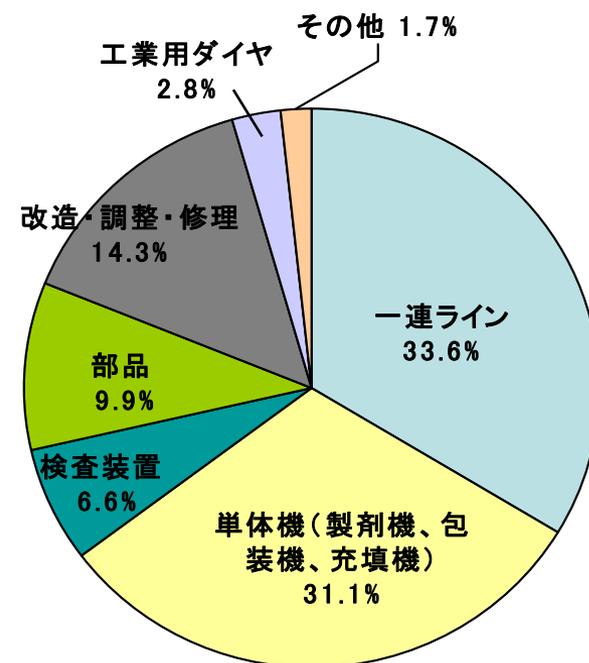
- 減収(△358百万円)の影響、販売費及び
一般管理費の増加により、営業利益は139百
万円の減少となる見込。

セグメント別売上構成－1

■ 品目別販売構成比（予想）

（単位：百万円）

	09/3	10/3 予想	前年 同期比
一連ライン	3,336	3,050	△286
単体機（製剤機、包装機、充填機）	2,878	2,820	△58
検査装置	579	600	21
部品	835	900	65
改造・調整・修理	1,303	1,300	△3
工業用ダイヤモンド	383	250	△133
その他	110	150	40
合計（全体）	9,428	9,070	△358



2010年3月期通期予想

セグメント別売上構成－2

■ 地域別構成比（予想）

（単位：百万円）

	2009/3	構成比%	2010/3(予想)	構成比%	増減額
国内	9,191	97.5%	8,740	96.4%	△451
北米	0	0.0%	40	0.4%	40
アジア	235	2.5%	280	3.1%	45
その他	1	0.0%	10	0.1%	9
合計	9,428	100.0%	9,070	100.0%	△358

■ 業界別販売構成比（予想）

（単位：百万円）

	2009/3	構成比%	2010/3(予想)	構成比%	増減額
医薬品	6,589	69.9%	7,000	77.2%	411
化粧品	1,272	13.5%	1,120	12.3%	△152
食品	571	6.1%	300	3.3%	△271
その他	995	10.5%	650	7.2%	△345
合計	9,428	100.0%	9,070	100.0%	△358

関係会社の状況

(単位:百万円)

	2009年3月期			10年3月期(予想)		
	売上高	経常利益	当期純利益	売上高	経常利益	当期純利益
日伊包装(株)	76	17	△13	82	3	2
(株)ウイスト	831	49	27	700	6	3
ファーマリード・エンジニアリング(株)	133	23	23	140	18	18

当社の現状と 今後の展望

代表取締役社長

三浦 浩一

対処すべき課題進捗状況

■検査機を中心とした製品開発の推進

いくつかの検査装置を開発中

■新しいDDS分野(※)でのシェア拡大

さらに実績を積み重ね、DDSの新しい投薬技術・効果をPR展開・受注強化を図る。
(参考P18)

■M & Aを視野に入れた海外市場への積極的な展開

昨年に引き続き、タイ、韓国、シカゴにて開催された展示会に出展。(参考P21)

引き続き米国等を中心に国内外で調査・検討を継続中。

※DDS(Drug Delivery System(ドラッグ デリバリー システム))とは、目標とする患部のみに薬剤を送り込む投薬技術のこと。ピンポイントで投薬することができるため、薬剤の投与量を最低限に抑え、利用効果を高めつつ、副作用の軽減も期待できる新しい投薬システムとして注目されている。

新製品

新製品の市場への投入

国内初 医薬品製造機器のフルコンテインメント化に成功

イタリアIMA社の打錠機、カプセル充填機により、医薬品製造機器の封じ込め(フルコンテインメント)システム構築に成功



《機器構成(写真左より)》

操作パネル、イタリアIMA社製打錠機 Comprima300、
錠剤サンプリング測定装置、除粉機、金属検出機及びアイソレーター、
洗浄/乾燥装置

《主な特徴》

- ・接続部からの主薬の漏れがなく、安全に作業できる。
- ・生産終了時に機内に残された製剤を安全に除去できる。
- ・機械の自動洗浄ができ、人手による作業を削減できる。
- ・洗浄後の機械乾燥を自動的に行うことができる。
- ・主薬による作業者への影響を抑えた最も高レベルの機械である。



《機器構成(写真右より)》

イタリアIMA社製カプセル充填機 Imati150、サンプリング重量測定装置、
除粉機、金属検出機及びアイソレーター、洗浄/乾燥装置

新製品

新製品の市場への投入

MUTUAL
株式会社 ミューチュアル

COMBI500CEIA型粉取り装置 (金属検知器組み込み式)

Pharma Technology社 (ベルギー)

特長

- ★スパイラル板に最適な角度をつけ、錠剤が全て払い出されるように設計されています。
- ★多品種な錠剤に対応(粘性を持つ錠剤、2層錠剤なども可能)
- ★錠剤は、投入より排出までクローズされた状態で送られます。



新製品

新製品の市場への投入

経肺吸収/経皮吸収の世界トップメーカー Harro Höfliger社(ドイツ) DDS経肺吸収装置 **日本初上陸**

高齢化が進む中で増加している**新しい投薬形態＝経肺/経皮吸収**

※経肺吸収とは：吸引剤 経皮吸収とは：貼り薬（ニコチンパッチが有名）



オムニドーズ充填機



製品群(例)

《経肺吸収/経皮吸収》

ご老人の患者様の場合、錠剤やカプセル錠では喉に引っかかり、投薬しにくい(飲みにくい)場合があります。また、注射・点滴の場合は、苦痛を伴います。

それに替わる**新しい投薬形態が経肺吸収/経皮吸収**なのです。

貼付剤 製造・包装システムの構築

★貼付剤の薬効拡大と利便性により、薄いプaster剤型(薬剤だけを用いた水を含まない外用の消炎鎮痛剤)が好まれるため、貼付剤メーカーの新製品導入が盛んであり、弊社は調合設備から包装設備の一連ラインをエンジニアリングし、殆ど独占的に納入しています。

★ライン構成は、薬物の調練合機～展膏機～裁断機～集積～四方シール機～カートナー～段ボール詰め機まで豊富な実績・経験で工場内レイアウトから製造設備一式を多数受注しています。

★経皮吸収剤は鎮痛剤を始め、投与方法として安全で優しく、経口剤に変わる新しい投薬形態として各種薬物で開発が進められており、今後継続して受注が見込まれます。



(商品)

(四方シール品)



展膏機



裁断集積装置

新製品

新製品の市場への投入

ロボット式万能カートナー

新技術の構築

多品種対応・再現性・メンテナンス性・高品質

特長

段取り変え時間短縮・不良品の低減・高品質



内外主要展示会への積極的参加

■ 新規市場への積極的PR

★展示会出展実績及び予定

-前期実績-

- 2008年5月 2008コリアパック(韓国)
- 2008年5月 ワールド・オブ・フード2008(タイ)
- 2008年6月 プロパックアジア2008(タイ)
- 2008年10月 国際粉体工業展東京2008(東京)
- 2008年11月 PACK EXPO2008(シカゴ)

-今期予定-

- 2009年6月 プロパックアジア2009(タイ)
- 2009年7月 インターフェックスジャパン(東京)
- 2009年10月 ジャパンパック2009(東京)



(2008コリアパック:韓国)



(ワールド・オブ・フード2008:タイ)

■ 2009年 展示会

昨年に引き続き、海外市場展開を目指し出展



(PACK EXPO2008:シカゴ)



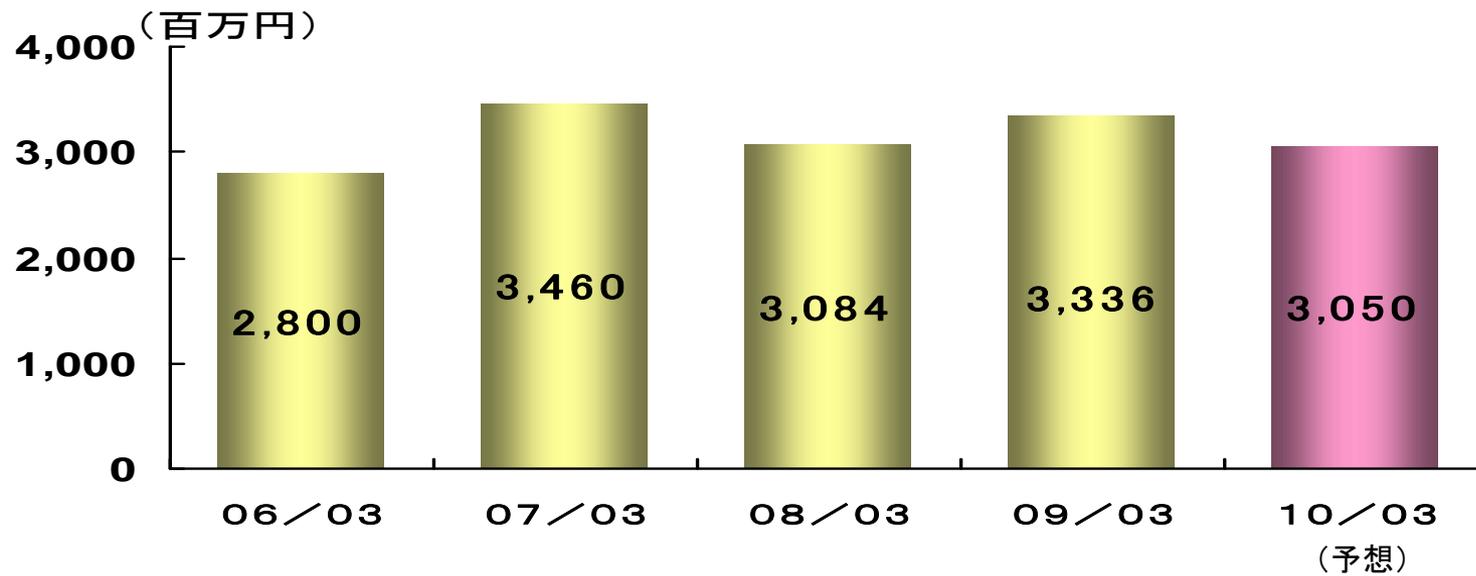
(国際粉体工業展2008:東京)



(プロパックアジア2008:タイ)

一連ラインの推移

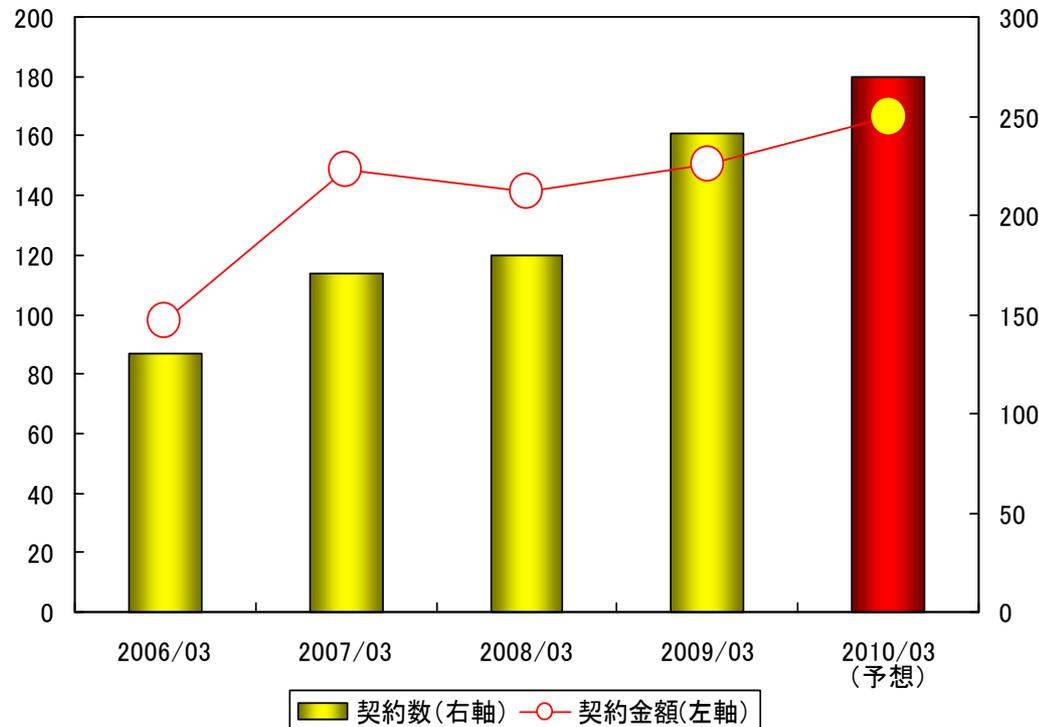
■ 一連ラインの売上高推移



メンテナンス分野の拡大

- 総合的生産ラインのアウトソーシングに対応、受託中堅医薬品メーカーの生産設備保守要員不足をターゲットにし、メンテナンス一括契約の拡大、更なる顧客満足度向上を図る

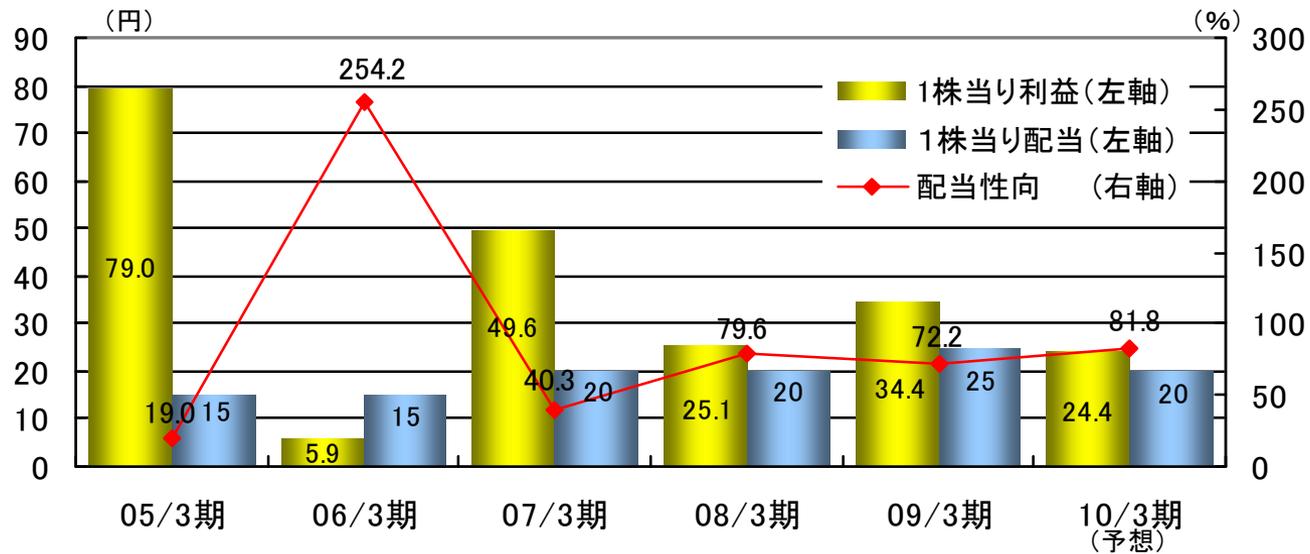
(単位:百万円) ■メンテナンス契約実績&予想 (単位:件数)



	契約数	契約金額
2006/3月期	87件	147百万円
2007/3月期	114件	223百万円
2008/3月期	120件	212百万円
2009/3月期	161件	226百万円
2010/3月期(予想)	180件	250百万円

配当 方針

経営体質の強化並びに今後の事業展開に備えるべく必要な内部留保を確保しつつ安定した配当を継続に努めることを基本方針としております



配当利回り(*)	1.68%	2.14%	3.45%	3.88%	5.43%	—
----------	-------	-------	-------	-------	-------	---

(*)各期末株価に基づき算出

10/03期予想配当金 : 20円

ミューチュアル決算説明会にご参加 して頂きありがとうございました

将来の見通しに関する注意事項

本資料に掲載されている株式会社ミューチュアルの業績見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づいた見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。

そのため、これらの業績見通しにのみ全面的に依拠して投資判断を決定することは避けるようお願いいたします。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご理解ください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、需給、世界情勢などが含まれます。

お問い合わせ先

株式会社ミューチュアル

取締役総務部長 住中秀和

TEL:06-6315-8613

FAX:06-6315-8618

 E-Mail: info@mutual.co.jp